

Ⅲ 高等部の研究

目 次

1 高等部の教育	95
2 生活単元学習の指導内容の設定について	
(1) 具体的指導内容	96
(2) 今回の指導計画の改善の視点	98
3 実践研究	
(1) これまでの研究から	101
(2) 今回の研究の視点	101
(3) 研究内容	
① 集団の構成を探る	104
② 学習活動を探る	105
③ 教師のかかわり方を探る	106
(4) 研究の方法	
① 本時での学習計画を立てる	109
② 授業を分析する	110
③ 単元を評価する	111
4 実践例	112
5 まとめと今後の課題	118

1 高等部の教育

高等部における三年間の生活は、社会への出口へつなぐための学校教育における総仕上げの大切な時期である。学校卒業後の新しい生活の中で、自分の持てる力を最大限に発揮し、積極的に生きていこうとする力を育てることは、青年期教育の在り方として大きな意義がある。

ところで、社会生活を営む上で最も大切な社会とのかかわり合いという視点から生徒たちの姿を見ると、教師や限られた生徒、自分の興味のある特定の物などには比較的豊かに自分からかかわっているものの、集団の中においてはかかわり合いが滞りがちであったり、自己の内面を相手に伝えたり、表現したりすることが不十分な生徒も多い。例えば、生徒たちの現場実習での様子や、卒業生の進路先で指摘されるのが主に対人関係に関するものである。作業能力には問題はないが、周りの人々とかかわり合いを持って相手に自己の意思を伝えることができなかったり、状況に応じたかかわり合いができなかったりする指摘等である。このようなことを考えると単に作業能力だけを身に付けさせるだけでなく、集団の中で自己をうまく表現し、多くの人々とかかわり合える力や、自分や相手の役割を意識して活動できる態度を育てなければならないと言える。また、自我の成熟段階から見て生徒が自己中心性から脱却し社会的承認を求める心が強く自己客観視が芽生えてくる段階やほぼ自己客観視が確立し、自己実現への内的衝動の萌芽が見られる段階にあることを考えると、仲間や集団の中で役割意識を持って自己の能力を十分に発揮でき、多くの人々と豊かにかかわっていける力を身に付けさせなければいけないことが言える。

そのようなことから、高等部においては作業学習を教育課程の中核に据えながら、生活単元学習をはじめとする、全教育活動でのいろいろなかかわり合いを通して働くことに対する意欲を高め、勤労を重んじ、自分の将来の進路について関心を持たせていくような指導内容の工夫や充実を図る。特にこれまで取り組んできた「集団の中で状況に応じたかかわり合いを展開させるための指導法の研究」で、かかわり合いが豊かにできるための集団構成や活動内容に視点を当てた事例研究で得た成果を基に、一人一人の生徒たちの集団の中におけるかかわり合いがお互いに豊かに高まっていけるような指導内容、指導方法等を研究していく。その中で、周りの人々と多くのかかわり合いを持たせるような豊かな体験活動の場を多く設定するとともに、個に応じた学習内容を準備し、意欲付けを図り積極的、主体的に取り組ませる。

このように、生徒一人一人の発達段階や特性等を十分に考慮しながら全学校教育での活動を通して、集団の中で自分の置かれている立場や、相手の立場を意識した行動や自己の内面を相手に伝える力を高めさせていく。このような活動を取り入れた学習を繰り返していくことで、自己の意識化、自我関与を高め、自我の発達を促し、状況に応じたかかわり合いを豊かにさせることができる。さらに、これらを通して、自分の課題を解決していこうとする意欲や将来の生活に向けた自分自身の生き方についての興味・関心も高まり、見通しを持った家庭生活や職業生活に必要な基礎的・基本的な事柄や勤労を重んずる態度が身に付き、卒業後の社会生活に可能な限り参加し、自立していこうとする生徒を育成することができると考える。

2 生活単元学習の指導内容の設定について

(1) 具体的指導内容

高等部の生徒の自我の発達段階を見てみると、自己中心性から脱却し社会的承認を求める心が強く、自己客観視が芽生えてくる段階から、自己客観視が確立し、自己実現への内的衝動の萌芽が見られる段階にあるということができる。

こうした発達段階にある生徒たちの欲求、興味・関心と生活上の課題から、具体的には次のような指導内容を準備していくことにした。

表1 生活単元学習における具体的な指導内容一覧表

生徒の欲求，興味・関心	生活上の課題	具体的な指導内容
<ul style="list-style-type: none"> ・自分のことは自分でしたい。 ・健康な生活を送りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りのことはほぼ自分でできる。場に応じた身辺処理をより確かなものにする。 ・規則正しい社会生活を送る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身辺処理など基本的な事柄の習慣化を図り、場に応じた規律等を含んだ内容 ・健康・衛生に関する内容 ・性に関する内容
<ul style="list-style-type: none"> ・買い物や簡単な調理をしたい。 ・友達や教師，身近な人から承認されたい。一緒に活動したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活での電化製品や調理器具を操作したり，買い物をしたりする。 ・自分の役割を明確にし集団の中でうまくかかわる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭生活に関する内容 ・家庭や学校，近隣の地域社会とのかかわりに関する内容
<ul style="list-style-type: none"> ・自然の動植物や芸術に触れたい。知識を得たい。 ・自分の仕事は自分でやり遂げたい。 ・身近な仕事，卒業後の生活について知りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然や芸術への興味・関心を持つ。 ・自分の仕事を最後まで果たし，友達と豊かにかかわる。 ・家族の仕事や役割，自分の卒業後の生活について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然や芸術との触れ合いに関する内容 ・集団の中での係や仕事に関する内容 ・勤労に関する内容
<ul style="list-style-type: none"> ・初歩的な社会の仕組みを理解したい。 ・友達や年下の子供の世話をしたい。お年寄りに親切にしたい。 ・人のために役に立ちたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設の理解や交通機関の利用をする。 ・基本的な社会の仕組みやニュースを理解する。 ・かかわる相手によってリーダー性を発揮したり，かかわり方に気を付けたりする。 ・奉仕的な活動をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設や交通機関の利用に関する内容 ・社会の仕組みや出来事に関する内容 ・異年齢集団や地域社会との交流に関する内容

単元を設定，配列する際は，生徒の欲求，興味・関心，生活上の課題を一つ一つを細かく検討し，季節や学校行事との関連を考え，学習内容を選定し，単元としてまとまりを考えて設定・配列していった。次に臨海宿泊を例にとり示すことにする。

(例) 臨海宿泊

生徒の欲求，興味・関心	生活上の課題	季節や学校行事との関連
<ul style="list-style-type: none"> ・自分のことはできるだけ自分でしたい。 ・買い物や簡単な調理が好きである。 ・身近な自然に興味を持っている。 ・広々とした自然の中で生活したい。 ・友達と一緒に過ごしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・初めての場所での身の回りの整理を自分でする。 ・友達と一緒に買い物や調理を楽しむことができる。 ・草花を使って飾りを作るなどして楽しむことができる。 ・身近な自然に興味・関心を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内での宿泊を経験している。 ・学校に慣れ，学年以外の生徒同士のかかわりも広がりつつある。 ・夏休みを前にして自然との触れ合いや，旅行についての話題が多くなっている。

これらのことから学習内容を考えると次のようなものてくる。

学	習	内	容
◎	季節（夏）を感じさせ，自然との触れ合いを多く含んだ内容		
	・ 身辺処理，買い物，調理などの活動を含んだ内容		
	・ 校外での宿泊を含んだ内容		
	・ 友達同士のかかわりを多く含んだ内容		
◎	集団での活動を含んだ内容	など	

これらの学習活動を単元としてまとめると，**臨海宿泊** となる。

同様にして外の単元についても考え，季節，学校行事との関連を配慮し，配列していった。次に，単元一覧及び中心的な学習内容・活動表を示す。



表2 単元一覧及び中心的な学習内容・活動表

月	単 元 名	主 な 学 習 形 態	中 心 的 な 学 習 内 容 ・ 活 動
4	高 校 生 に な っ て 高 校 2 年 生 に な っ て 高 校 3 年 生 に な っ て	学 年 別	自分自身の生き方 集団生活を送る上での規律
5	修 学 旅 行 2, 3 年 (隔年)	2, 3 年 による 縦 割 り グ ル ー プ	地域の歴史や文化、交通機関の利用 集団行動
5 6	働 く 生 活 I II III	学 年 別	働くこと 自分自身の生き方
7	臨 海 宿 泊	縦 割 り グ ル ー プ	自然との触れ合い 集団行動
9	運 動 会	縦 割 り グ ル ー プ	集団行動 健康な生活
10 11	職 場 の 生 活 I II III	縦 割 り グ ル ー プ	自分自身の生き方 働くこと 将来の生活
12	暮 れ の 街 の 見 学	縦 割 り グ ル ー プ	買い物 交通機関の利用, マナー 余暇の過ごし方
1	公 共 施 設 の 利 用	縦 割 り グ ル ー プ	社会の仕組みや出来事 余暇の過ごし方 近隣の施設の利用
2	地 域 と の 交 流	縦 割 り グ ル ー プ	奉仕活動 交流活動 健全な異性観
3	も う す ぐ 進 級 I も う す ぐ 進 級 II も う す ぐ 卒 業	学 年 別	自分自身の生き方 将来の生活

これらの単元の学習を展開するに当たっては、表2に示すような主な学習形態で実施した。学年別とは学年集団ごとに実施し、縦割りグループでは学年を解き、単元のねらいを考慮した上で集団を構成した。

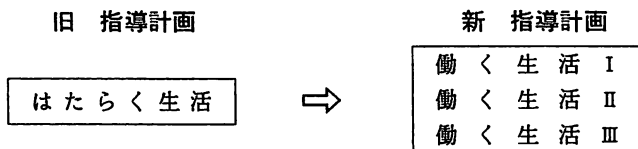
(2) 今回の指導計画の改善の視点

高等部では学校教育目標及び学部教育目標を具現化し、今回の改訂の趣旨や研究の視点を踏まえ生徒一人一人の実態に応じた指導計画を作成するために、次の3点を視点として考えていくことにした。

○ 個に応じた指導の充実を図るために(表2参照)

高等部の生徒にとって、集団生活、ひいては社会生活を送る上で必要となる基礎的、基本的な事柄を身に付けさせるために、私たちは今までも個に応じた指導を行ってきたが、更に明確に生活経験や個人課題の違いに配慮した指導計画を作成することで、より個に応じた指導が充実していくものと考えた。

そこで、学年単位で行う単元や職場の生活については、これまで一本であった単元を複線化することにより、経験差によるねらいや個人課題、留意点の内容を明確にし、一人一人に応じた学習内容を準備していくことにした。



また、縦割りグループで行う単元については、生活経験を考え、1年生と2、3年生の単元の目標や、留意点に違いを設けることにし、より個に応じた指導を充実していくことにした。

旧 指導計画「運動会」の目標

- 運動と健康の関係についてわからせ、体力づくりに取り組もうとする意識を高める。
- 運動会の練習や準備、係活動などを通して、協力したり責任を果したりして、積極的に参加しようとする態度を養う。



新 指導計画「運動会」の目標

- 運動会の練習や準備、係活動などを通して、友達や下級生と協力しようとする態度や自分の役割を果そうという意識を高め、運動や健康的な生活に関心を高める。(1年)
- 運動会の練習や準備、係活動、競技などを通して友達や下級生と一緒に協力して取り組む態度や自分の役割を最後までやり通そうという責任感を育てるとともに、健康に対する意識や身体の働きを理解し、運動に親しもうとする態度を養う。(2、3年)

○ 体験活動を充実させるために（「公共施設の利用」の新設）

高等部の生徒はバスや電車などを利用して買い物に出かけたり友達の家を訪ねたりすることが好きである。また、保護者と一緒に市役所や美術館、博物館などに出かけることがある。しかし、買い物の場所が限られていたり、保護者と一緒だったり、金銭の取り扱いや、利用の仕方があいまいだったりして社会の中で豊かにかかわっているとはいえない。そこで社会での体験活動をより充実させることが必要であると考え「公共施設の利用」を新設することにした。生徒一人一人の興味・関心に応じた公共施設を利用するために必要な交通機関や金銭の取り扱い方、簡単な届出の仕方など総合的に学習させることで、卒業後の余暇利用や郵便局、銀行、市役所などの利用のためのステップとして、経験を広げ活動できるようになっていくのではないかと考える。(指導計画参照)

また、高等部では体験を社会との体験(交通機関の利用や施設の利用)ととらえるだけでなく、自然と触れ合う体験(臨海宿泊)や老人ホームへの慰問など奉仕的体験活動(地域との交流)など、幅広く様々な体験をすることができるような内容も単元の中に盛り込んでいった。

○ 今までの研究から

前回までの研究において、私たちはかかわり合いを豊かにしていくための指導法の研究を行ってきた。そこで役割意識と自己表現について研究を深めていったが、この研究を指導計画の中に生かしていくことで更に豊かなかかわり合いが展開できると考え、指導計画の中に役割意識を高める内容や自己表現を豊かにする内容を盛り込んでいくことにした。

(P104～ 研究内容参照)

旧 指導計画 臨海学校

主 な 学 習 活 動 ・ 内 容	留 意 点
<p>3 臨海学校の生活について話し合う。</p> <p>(1) 班編成をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ テント班 ・ 活動班 <p>(2) 約束や心得を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 集団行動 ・ キャンプ地の生活ほか <p>(3) 必要な仕事を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 仕事内容や係 ・ 役割分担 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話し合った内容は、しおりに記入される。 ・ 生徒の希望を取り入れながら編成するが、テント班と活動班とはお互いの関連を図るようにする。 ・ これまでのいろいろな行事における約束や行動をもとにして決めさせる。 ・ 日程表に沿って調べさせ、しおりに記入させる。 ・ 活動班ごとに分担され、各班では全員に一人一役を割り当てる。

新 指導計画 臨海宿泊

主 な 学 習 活 動 ・ 内 容	留 意 点
<p>3 臨海宿泊の生活について話し合う。</p> <p>(1) 班編成や役割分担をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ テント班 活動班 班長 ・ 必要な仕事や係 <p>(2) 約束や心得を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公共施設、交通機関の利用 <p>(3) 自然探索について調べる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年生は、自分の班員や班名をしっかりとらえさせ集団での活動を意識させる。 ・ 2, 3年生は、活動の中心となるように促していく。係の仕事内容や活動について経験があることから動作化させて1年生に知らせたり、一緒に活動させたりしてリーダーとしての自覚を高めさせる。 ・ 約束や心得は絵カードなどを用いて分かりやすいように知らせる。

3 実践研究

(1) これまでの研究から

高等部では、これまでの生徒の持つ課題を明確にしていく中で、学校や職場においてのかかわり方に問題点を見出し、集団の中でいかに状況に応じたかかわり合いが展開できるかをテーマとしてその指導法を探ってきた。その中で、生徒にとってかかわりやすい集団を構成し、生徒自身が集団における役割意識を高め、自分の意思や感情を表出させやすい活動内容を準備することで生徒の集団におけるかかわり合いが豊かになることの成果を得た。この成果は、生活単元学習の実践においても生かされ、生徒のかかわりが広がりつつあり、役割意識の向上や自己表現の高まりも見られてきつつある。そして実践の中で私たちは、かかわりやすい集団を構成することは、すなわち集団の中での自分の役割意識を明確にさせ、気持ちや考えを出していきやすい集団ではないかと思えてきた。例えば、リーダーシップのある生徒にとっては、メンバーシップのある生徒を中心に構成したり、自己表現の滞りやすい生徒には、相互選択関係にある生徒を構成員に加えたりということからも分かる。つまり、独自の2つの視点であった集団の構成と活動内容は、役割意識を高めさせ、自己表現を豊かにしていくという共通の視点で結ばれていることに気付いたわけである。この重要と考えた役割意識と自己表現について改めて見直し、以下のようにとらえた。

- ・ 役割意識⇒ 自分が置かれている状況を把握し、その中でどのように役割にあった行動をすればよいか、どのように人や物とかかわり合っていけばよいかという役割に対する自己内の意識。
- ・ 自己表現⇒ 表情、身体表現、言語活動により、自己の内面（意思、欲求、感情、思考等）を表面化して相手に伝達したり、自己の内面をより充実させたりするために行われる行動。

このようなことを踏まえて、実践するとともに、役割意識を高めさせ自己表現を豊かにするにはどのような手立てが必要かを探り、平成2年度から取り組まれている生活単元学習の指導計画にいかにより具現化したらよいか検討していった。

(2) 今回の研究の視点

今回は、「かかわり合いの豊かな子供を育てる教育課程の編成」ということで取り組んできたが、すでにこれまでの研究の成果を生かし生活単元学習の指導計画作成に当たって各単元ごとに役割意識を高めるような内容や自己表現を豊かにする内容を組み込んでいった。これと同時に実践研究において更にその検討を行うことにした。つまり、実践研究においては、その指導計画における学習内容を授業場面において生徒の実態等を踏まえながら更に具体的活動や手だてをどのように準備していくかについて探っていくものである。

ところが高等部では、学部教育目標や位置付けから、家庭や社会といった集団の中でいかに状況に応じたかかわり合いができるかという課題を持っている。そこでこれまでの研究や前文のかかわり合いの豊かな子供の定義を踏まえ、「達成すべき集団の目標に向かって、課題解決に取り組んでいる場面で、自分の役割や他者の役割を意識した行動がみられ、自己の内面を

言語や動作などを使って表出し有効に人や物に働きかけている生徒」を常の実現していくことがかわり合いの豊かな子供を育てることにつながると考えた。

そのために、前文でも述べられたが、自己の意識化を促すには、「役割活動や自分自身を集団の中で表現できる活動を準備する」ことが大切な留意点となる。つまり生徒一人一人の役割意識を高め、自己表現を豊かにしていかなければならない。また、自我関与を高めていく上でも、集団を意識し、その中で自分の在り方に関心の高い高等部の生徒にとっては、自分の立場や集団の一人一人の立場を知り、自分はどこまで自分自身を様々な形で示していくのかなどに大きく自我が関与していると考えられる。役割を明確化し高次化させていき、自己の表現を発現させ、展開し充実させることが大切な手だてになると考える。

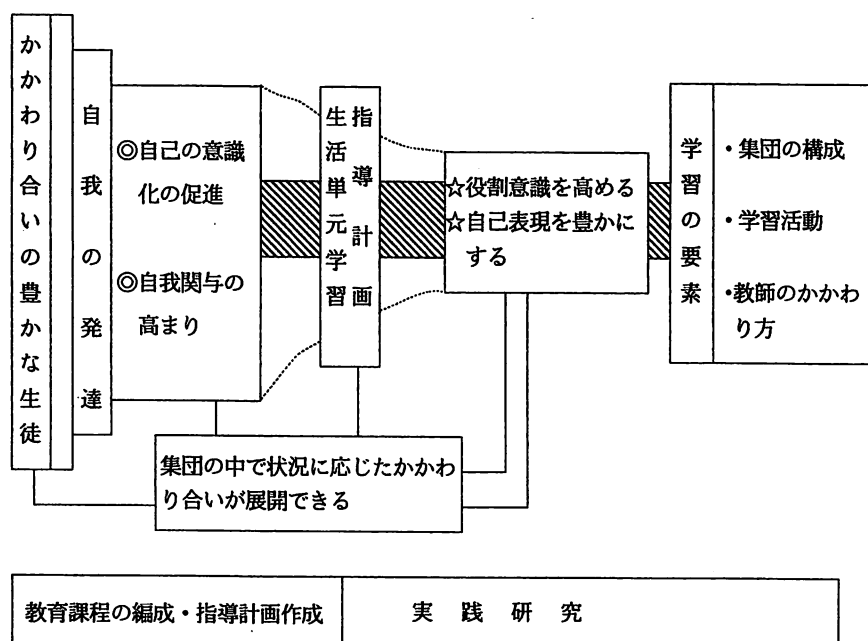


図1 研究の考え方

したがって、集団の中でかわり合いの豊かな生徒を育てるために「役割意識を高めていくこと」「自己表現を豊かにしていくこと」は、大きな視点となると考えた。

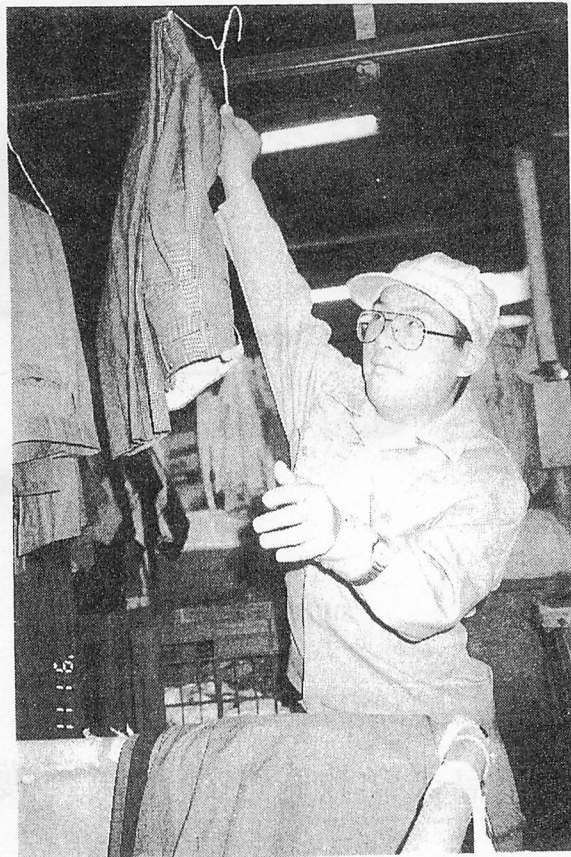
それでは、実際の学習場面を考えたときに、役割意識を高めさせ自己表現を豊かにするための手段、対象は何になるのだろうか。そのことを学習場面における要素から考えてみたい。

これまでに高等部では、集団におけるかわり合いの姿を追ってきたが、実践研究の対象とする学習場面での多くは、学級、グループといった学習集団を形成して取り組まれている。また、高等部段階では自我の成熟段階や欲求、興味・関心に仲間意識の高まりやリーダーシップの発達等、集団での自分の在り方についての意識が強い。「集団」そのものが生徒一人一人にとってどのような集団であるのか、どのような構成員で成立しているのかということは重要な要素となってくると考える。

また、前回の研究でも取り組んだ実際に生徒が行う「活動」があげられる。学習場面では、学習集団が目標（学習目標）に向かって取り組むような学習活動が設定される。この「学習活動」自体が、生徒の課題ともなり、集団の中で自分の役割意識を具現化し、自分の意思や感情などを表出するものともいえる。学習活動を成し得ることは、生徒一人一人において自我の関与も高まり、自己の意識化も促されると同時にそこに含まれる基礎的な知識や技能等を習得し、成就感が生まれ、より主体的な態度を培っていくことにもなる。したがって、重要な要素と考える。

そして、この学習活動を実際に計画し、援助していくのが教師であることから、そのかわり方や集団の中での働きかけこそ大切と言える。それは、集団の目標が教師のねらいと方向を同じくするものであり、生徒の興味・関心を十分把握した上で、教師の意図するところと関連させて学習活動等も設定されるからである。同様に教師自体、集団の中で一人一人の生徒とのつながりを持ち、適時適切なかかわり方ができる立場であることからと言える。

このように考えていくと、高等部で求めていくかわり合いの豊かな生徒を育てるために実践していく上で、実際の学習場面では、集団の構成や学習活動、教師のかかわりなどにおいてどのように役割意識を高めていき、自己表現を豊かにしていくかが重要な視点と言えよう。



(3) 研究内容

① 集団の構成を語る

私たちは、本年度の研究は、かかわり合いを豊かにするために計画された活動内容が、いかに妥当であったかを、生活単元活動の実践を通して検証することだと考える。その際、前述したように、私たちは生活単元学習を展開していくに当たっては、等質、学年別など様々な学習形態を取りながら進めているが、実際の授業では、学習集団の構成員一人一人が、達成すべき集団目標を共有し、目標に向かって取り組んでいる過程において、お互いに自己や他者の役割を意識し、自己の内面を十分に表現しながらかかわり合えるような集団を構成していくことが大切なのではないかと考える。そのような集団であれば、生徒たちは、集団の中における自分の存在、立場といったものを意識できるようになるとともに、自分の気持ち、考え等を十分に表現していくことができるようになり、生徒たちの自己意識、自我関与の促進に影響を及ぼすものとする。なお、集団の構成を考える視点としては、昨年度の研究を踏まえ、集団の大きさ、構成員の質、対人関係といった3つを考えた。

以下、主な内容を示すこととする。

○ 集団の大きさ

- ・ 一人一人の生徒にとって、あるいは状況によって、その大きさが違うことを踏まえながら学習内容や教師のニーズ、生徒の実態を考慮し、より豊かにかかわり合うことのできる集団の大きさについての検討を図る。

○ 構成員の質

集団の中で発揮され得る生徒一人一人の特製等に応じたグルーピングの仕方を検討する。具体的には以下のとおりである。

- ・ 各単元における目標を達成するために、生徒たち一人一人の課題は何かを探るとともに、各単元の活動内容についての興味・関心はどうであるかを考える。
- ・ 前文で示されている自我の成熟過程をもとに、生徒たち一人一人の自我の成熟段階がどの段階にあるのかを探り、集団構成の参考にする。
- ・ 集団活動を行う際において、班長は班長らしく指示や世話をしたり、班長は決められた自分の仕事をしたりするといったように、生徒たち一人一人が集団の中でどのような役割を果たせるのかを、リーダーシップやメンバーシップの発揮の状態の面から探る。

ただし、集団を構成していく際には、リーダー的な役割を果たす生徒が、いつもリーダー的な役割だけでなく、ときには、他の生徒から指示されたり、世話を受けたりするような役割も経験させていくことにする。

○ 対人関係

集団内における相互作用は、人々が相手に対して抱く自発的感情に基づいており、この結び付きが個人の集団的活動と集団的發展の基礎なると言われていることから、生徒同士の対人係を集団内における相互作用という観点から、把握、検討しながら集団を構成することにした。

なお、集団内の対人関係を見ていく際には、集団が、生徒同士、互いにかかわり合える

ようなものになるように、それぞれの生徒同士、相手のことをよく見ている、またそのように感じている生徒の集まりを第一に考慮している。また、生徒たちが、今後の将来の生活において、様々な性格、また考え等を持った人とかかわり合っていかなければならないことを踏まえるとき、生徒同士の関係の中で、排斥関係にあるような生徒も集団の中に入れていくようにしていきたいと考える。

以上、集団構成の視点について述べてきたが、これらの3つの視点はそれぞれ独立したものではなく、3つの視点を総合的にとらえ集団構成を検討していくこととする。

② 学習活動を探る

私たちは、集団を通してのかかわり合いを見ていくとき、どのような集団が構成されていけばよいかという要素とともに、実践を進めていく上においては、学習集団が達成すべき目標を共有し、その目標に向かって取り組んでいけるような学習活動を設定していくことが大切になるのではないかと考えた。一般に、学習活動は、「学校の授業など学習の目的を達するための活動」と言われている。私たちは、このことを踏まえるとともに、集団の中での状況に応じたかかわり合いを、授業など課題解決に取り組んでいる場面において、自分の役割や他者の役割を意識した行動がみられ、自己の内面を言語や動作などを使って表出しながらかかわり合っている状態であると考えるとき、学習活動を「学習集団が目標に向かっていく過程において、生徒たちが、役割を意識しながら、そして自己の内面を表現しながら取り組んでいる活動である」と考えたい。なお、学習活動を設定していく際には、生徒たちが役割を意識したり、自己を十分に表現したりするような場の設定、教材・教具等を考慮していくこととする。以下、学習活動を設定していく際に、配慮していくことを述べていきたい。

役 割 意 識 を 高 め る た め に

○ 様々な役割を含んだ活動であること

- 生徒たちが、自己の役割や他者の役割の意識を高めるために、学習活動の中に様々な役割を含んだ活動を盛り込むようにする。その際、生徒一人一人が集団の中でどのような役割を果たすことができるのかを考慮するとともに、様々な役割を含んだ場の設定等を考えていくようにする。

○ お互いの役割での行為のやり取りがある活動であること

- 生徒たちが、自己の役割や他者の役割また他者がどのように期待しているかを意識できるように、お互いの役割でのやり取りをさせるような活動を盛り込んでいくようにする。なお、やり取りをさせる際には、活動相手をどうするか、どのような活動をさせていくかを考えていくようにする。

自己表現を豊かにするために

- 生徒が興味・関心を持ち、意欲的に表現できるような活動であること
 - ・ 生徒たちが、自己を豊かに表現していくためには、活動自体が、生徒たちにとって適度に自我を関与させていくようなものでなければならないと考える。そのことを踏まえるとき、生徒たちのこれまでの学習経験、学習への取り組みの様子などを考慮しながら、生徒たちが興味・関心を持ち、意欲的に取り組めるような学習活動を設定していくことが大切であると考えます。
- 教師と生徒が一緒になって取り組めるような活動であること
 - ・ 一人では、なかなか自己を十分に表現できない生徒であっても、教師と生徒が、一緒になって体を動かすような活動等を設定すると、自分自身リラックスして心を開くとともに、自分の気持ち、感情等を十分に表現するようになっていくのではないかと考える。

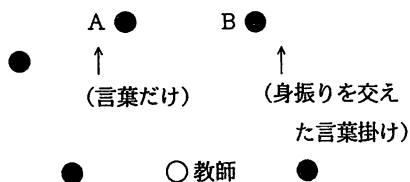
以上、学習活動を設定する際において配慮することを、役割意識、自己表現の観点から述べてきたが、お互いに関連し合っている面もあり学習活動を設定していく際にはそういったことも踏まえていくことにする。また、学習活動を設定していく際には、生徒たちの自我の成熟段階等を基にしながら、個に応じた配慮をしていくことが大切であり、このことは、今後、生徒たちが社会生活の中で過ごしていく際において必要な基礎的、基本的な知識、技能の獲得につながっていくものとする。そして、役割意識を高め、自己表現を豊かにするような学習活動を繰り返し設定していけば、生徒たちは、集団の中で自分の立場等を意識しながら、どのように行動すればよいかが分かってくるようになり、そのことが、生徒たちの自己意識、自我関与の促進を図っていくものとする。

③ 教師のかかわり方を探る

私たちは、授業での実践を進めていく中で、私たち教師も集団を構成する一員であると考えるとき、生徒たちが集団の中で状況に応じたかかわり合いをするためには、集団構成や学習活動を探るだけでなく、教師が集団の中でどのようにかかわっていくかが大切になってくると考えた。当然、そのかかわり方は指示的、強制的なものではなく、反応的にかかわっていくことが大切になってくるわけであるが、生徒たちが、授業の中で役割を意識し、自己を十分に表現しながら課題場面に取り組んでいる姿を、集団の中で状況に応じたかかわり合いであると考えるとき、私たちは、教師が生徒たちにどのように役割を意識させたり、自己表現を豊かにさせたりしていけばよいかを、教師の動き、言葉掛けを中心に見ていくことにした。以下、具体的な教師のかかわり方を述べることにする。

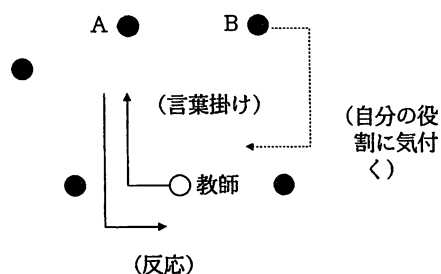
役 割 意 識 を 高 め る た め に

- 生徒たち一人一人に役割を意識させるために、個に応じた言葉掛けをする。



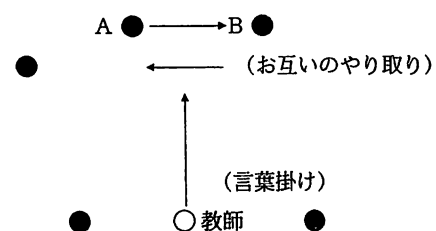
* みんなで協力して食事を作る場面においてB君は野菜を切る係であるが、それをB君が理解していないとき、教師がB君のそばに近づき、包丁で野菜を切るまねをしながら、「B君は野菜を切る係だったよね」と言葉掛けするなど。

- 役割を意識させるために、他の生徒に言葉掛けをする。



* みんなで協力して食事を作る場面においてB君は野菜を切る係であるが、それをB君が理解していないとき、教師がA君に、「B君の係は何だったかな」と問いかける。A君は、「野菜を切る係です」とこたえる。B君は、そのやりとりを聞いて、自分は、野菜を切る係であったことを理解するといった場面など。

- 生徒同士のかかわり合いを見ながら、生徒同士に互いの役割、他者の期待していることを意識させるような言葉掛けをする。



* みんなで協力して食事を作る場面において、A君は、自分が班長であることは分かっている。しかし、野菜をなべでいためようとしないB君を見て、腕を引っ張りながら「野菜をいためなさい」と伝えようとしているのだが、B君は野菜をいためようとしない。そのとき、教師がA君には班長として、またB君には野菜をいためる係としての役割を意識させるために、A君に対して「A君は、班長だね。B君になんて言えばいいかな」と言葉掛けする。A君は、B君に「野菜をいためてください」と言う。B君はそれを聞いて、野菜をいため始めるといった場面など。

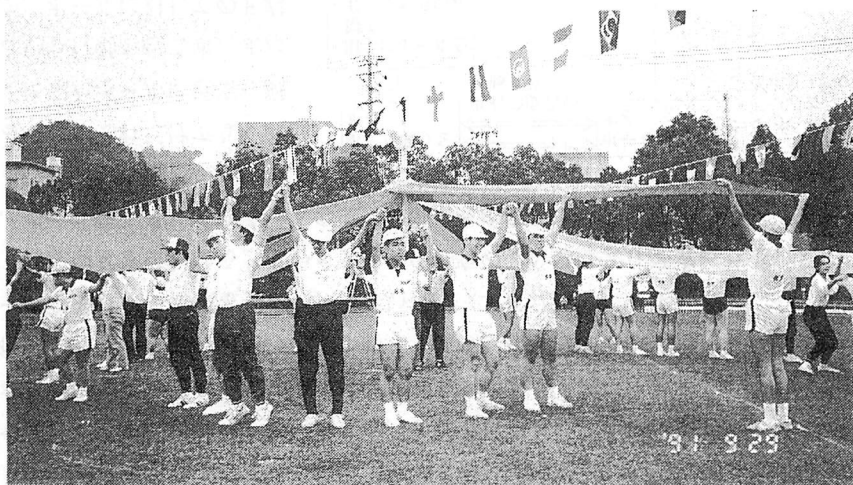
なお、学習活動の流れによっては、上に示した教師のかかわり方を柔軟に組み合わせながら、生徒の役割意識を高めていくようにする。

自己表現を豊かにするために

- 一人一人の生徒が、身体表現、言語等により自己を十分に表現できるような言葉掛けをする。
 - ・ 指示的、強制的な言葉掛けはせずに、生徒の表現を励ましたり、生徒の表現から感じたことを反応的に返したりする。例えば、臨海宿泊で、みんなで食事を作っているとき、なかなか自分の仕事をしようしない生徒の姿をみて「おいしい食事を作ろうか」「みんなと一緒に頑張ろうか」といった言葉掛けするなど。

- 生徒たちと共に活動する際、教師も生徒たちと同じ気持ちでかかわっていく。
 - ・ 教師も生徒たちの活動を一緒になって楽しみ、その雰囲気を感じ合うようにする。
例えば、臨海宿泊のレクリエーションの練習で、生徒たちが歌ったり、踊ったりしているとき、教師もただ見ているだけでなく、一緒に中に入り同じように歌ったり、踊ったりしながら、共にその雰囲気を感じ合っているなど。

以上、役割意識を高め、自己表現を豊かにしていくための教師のかかわり方を述べてきたが、当然そのためには授業場面においての生徒たちの様子から、役割意識の状態、自己表現の状態を感じ取る教師でなければならないし、またそれに応じて適切にかかわっていける教師でなければならないと考える。そして、そういった教師の働き掛けによって、自分の役割を意識していなかった生徒も役割を意識できるようになるであろうし、自己をうまく出しきれない生徒も、十分に自己を表現できるようになっていくであろうと考える。そして、そのことが、生徒たちの自己意識、自我関与の促進につながっていくものと考えている。



(4) 研究の方法

私たちは、研究の視点や内容を基にして、役割意識を高めていくとともに自己表現を豊かにするにはどのような手立てがあるかを具体的に設定される学習活動、教師のかかわり方、集団の構成等の要素において探るために定期的に授業分析を行い、単元の見直しを行っていった。

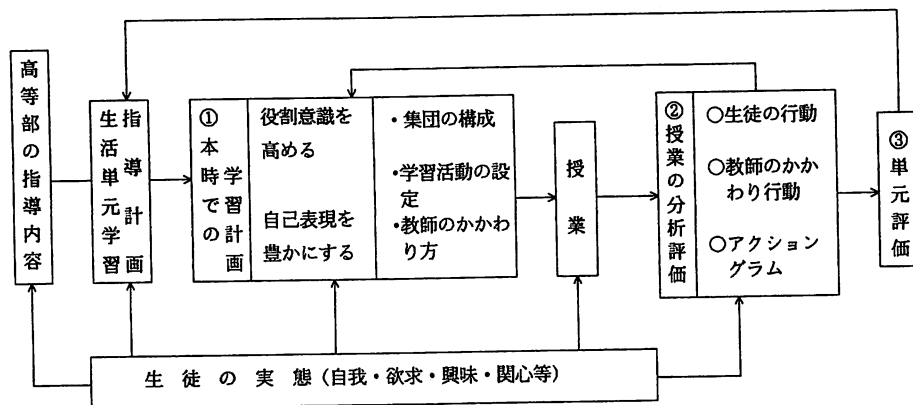


図2 研究の進め方

① 本時での学習計画を立てる

指導計画をより具現化すべき実際の授業計画段階においては、その学習集団の構成員の質や対人関係等を十分に把握した上で、生徒に対する具体的学習活動の設定や集団の構成、教師のかかわり方などを考えていくことにした。学習活動や教師のかかわり方については、研究内容（P104～108）を踏まえ、役割意識を高めて自己表現を豊かにするような集団で取り組んだり話し合ったりする活動を中心に主な学習活動を検討していく。その際に対象となる学習集団の中での個々に応じたかかわり合いを促すために、大まかに3つの群を設けてそれぞれに教師が期待すべき生徒のかかわり合い（本時での学習目標を十分に考慮しながら）を予想し設定していった。またそれに伴い、指導上の留意点においても教師のかかわり方について具現化を図り、どのように言葉掛けや働きかけをすればよいか明確にしていっていった。このように学習計画段階で、明確な生徒や教師の行動を示していくことで指導内容と指導法を結び付けていけると考えた。

＜学習計画（指導案）の具体例＞

過程	主な学習活動	予想されるかかわり合い			指導上の留意点	備考
		A	B	C		
開	5 係分担について話し合う ・自分のやりたい係を決め、発表する。 ・絵カードのところに名前カードや顔写真をはる。	班長や教師の補助を受けながら絵カードを取る。	回りや教師の補助を受けて発表する。	既に決まった係を考えながら自分のやりたい係を発表する。	・班長、副班長を中心にしてできるだけ自主的な話し合い活動をさせる。意見が出にくいときは教師が援助をして発表させる。	係分担表 名前カード 顔写真

② 授業を分析する

指導計画から、本時の実際において私たちが視点とした「役割意識を高めていくこと」「自己表現を豊かにしていくこと」は、生徒の学習活動に伴う実際の行動や表情等から分析評価できると考え、実際の教師や生徒の言葉や行動、表情を記録しそれに対応した分析ができるようにこれまでの研究を生かし表3のような分析表を作った。

表3 授業の分析表

教師のかかわり行動		生徒のかかわり行動			役割意識	自己表現	アクショングラム
T ₁	T ₂	A	B	C	段階	段階	

○ 生徒のかかわりについての分析 ～役割意識と自己表現の状態から～

学習活動に伴い、実際にとらえられる個々の生徒の活動や表情などを群ごとに記録し、その時々役割意識の状態や自己表現の状態を段階で表していくようにした。(表4参照)

表4 役割意識や自己表現の状態

役割意識		自己表現	
1	自己の役割を意識できない	1	表現、身体表現、言語やサインがない
2	自己の役割は意識できる	2	I, III以外の状態 (例えば、表現、身体表現は豊かであるが言語やサインは不十分である等)
3	自己の役割とともに他人の役割も意識できる	3	表情、身体表現、言語やサインが豊かである。
4	自己の役割に対し他人がどう期待しているかを意識できる		

○ かかわりの広がりについての分析 ～アクショングラムの結果から～

私たちは、授業の中で生徒の行動の対象は誰であったかをアクショングラムにより、その対象やかかわっていく度合いを見ていく。そして生徒同士または教師を含めた生徒と教師のかかわりを見ることによってかかわりの量的な広がりやかかわる頻度が分かると考えた。学習活動ごとにおけるその時々のかかわる様子を押しさえ、生徒の役割の意識や自己表現の状態と関連させながら分析していった。

(図3参照)

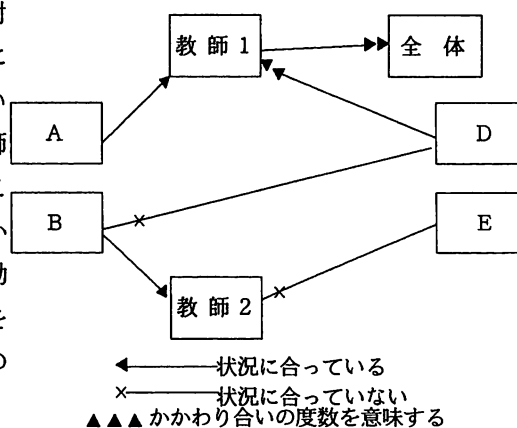


図3 アクショングラム

○ 教師のかかわり行動についての分析

教師のかかわり方についても、実際に表出された言葉や身振り、行為等が生徒の役割意識を高め自己表現を豊かにするようなかかわり方であったかどうかを研究の内容（P 106参照）で述べた点などを基に生徒のかかわりの状態と関連させながら分析することにした。

これら3つの内容を分析することで、学習計画での学習活動の設定、集団の構成や教師のかかわり方が役割意識を高め、自己表現を豊かにするものであったかという評価になると考えた。

③ 単元を評価する

これまでに述べたような定期的な授業分析を行い、単元を終えた段階で、毎時間の学習活動の設定や教師のかかわり方、集団の構成は役割意識を高め、自己表現を豊かにするものであったかを生徒の実際の行動や変容を交えながら総合的に評価していった。その上で、指導計画に設定された学習活動や指導上の留意点について検討し見直すとともに、単元を進める上で中心となる学習集団についても構成員の質や対人関係を中心に適切であったかを評価していくことにした。合わせてその単元ごとの目標や生活単元の目標についてもどうであったかを考慮して評価した。（実践例P 117参照）

以上のような研究の進め方で取り組み、かかわり合いの豊かな生徒を育てる生活単元学習のあり方について実践していった。以下に実践例を掲載する。



4 実践例

生活単元学習

(1) 単元 臨海宿泊

(2) 期日 平成3年7月2日

(3) 場所 高等部 3年教室

(4) 対象 3年生男子3名、2年生男子2名女子1名、1年生男子2名女子1名、計8名

(5) 本時 (10/38)

① 目標

- ・話し合いで自分の係を決め、発表することができる。

個人目標

群	A	K.S (1年男)	・ 教師の補助を受けて係を決めカードを取り発表することができる。
		K.H (2年男)	・ 教師や友達と係を決め、カードを取って正しい場所にはり、発表することができる。
群	B	T.H (1年男)	・ 積極的に話し合い活動に参加し自分の係を決めはっきりした声で発表することができる。
		M.E (1年女)	・ 積極的に話し合い活動に参加し教師や友達と係を決め、大きな声で発表することができる。
		T.A (2年女)	・ 積極的に話し合い活動に参加し自分で係を決め、発表することができる。
		H.T (3年男)	・ 積極的に話し合い活動に参加し自分で係を決め、発表することができる。
群	C	M.M (2年男)	・ 話し合い活動で班長や友達を補助して積極的に参加し、自分の係を決め内容を発表することができる。
		H.H (3年男)	・ 班長として責任を持って話し合いを進行し、さっさと自分の係を決め内容も発表することができる。

② 指導に当たって

生徒たちは前日までに期日、日程、場所等について学習してきているが、特に1年生は経験もないためグループでの実際の活動の流れを十分に理解しているとは言い難い。そこで本時はVTRを見ながら2、3年生が補足するという形で係や仕事を想起させ、班長を中心とした自主的な話し合い活動を主として係分担を行うことで、グループの結束や一人一人の役割意識の向上を図り、決まった係を実際に演技、発表することで自己表現を高めたい。

ア 役割意識の向上から

A群の生徒には、自分で興味を持った仕事内容を発表し、他者と一緒に動作化するという役割を与える。そこで、一つ一つの係の場面に応じた具体的な教具を準備し、適切な言葉掛けによって、友達や教師からの補助を受けながら動作化することができるようにする。

B群の生徒には、上級生としての自覚を更に促したり、積極的に自分の係を決め、発表し表現させたりするといった役割を与える。そのためには、昨年のVTRや絵カード、写真を使用することで一つ一つの具体的な係の内容を思い出させ、発表しやすくする。その際に教師は、順次全体に問いかけるように言葉掛けを行い、生徒からの発表を引き出すようにしたい、そうすることで全体の話し合い活動がより活発に行われ、更に自分のやりたい係を積極的に決め発表できると考える。

C群の生徒には、リーダー性をより発揮できるように話し合い活動において、司会、副司会をさせるなどといった役割を与える。更に他の生徒が学習活動にうまく参加できにくいときなど生徒同士の役割の意識も高めるために、積極的に補助させるようにしたい。特に、A群の生徒に補助が必要なことに気付かせることで、互いに自分の役割がより強化され、意識付けへとつながることができると思う。生徒同士の話し合い活動は自主的な活動を基本とするが、話し合い活動が活発に行われ一人一人の役割を意識させるために、教師は個に応じた言葉掛けを準備しておく。

以上のように教師は、生徒一人一人に様々な役割、活動を準備する、更に状況に応じた言葉掛けを適時折り込むことで、一人一人の係や役割を十分に意識付けることができると思う。

イ 自己表現を豊かにするために

生徒たちの自主的な話し合い活動を中心として、A群の生徒たちには興味・関心が高い小道具や顔写真カードを準備し、教師や友達と一緒に意欲的に体全体を使って取り組める発表活動をすることで、身体動作などによる表現も大きく伸び伸びできると考える。B群の生徒たちにはVTR、絵カード、写真などを利用することと教師の反応的な態度により、言語表出の苦手な生徒に意欲的な言語活動を促し、自信を持った身体表現もできると考える。C群の生徒たちには、前時までの計画表、班編成表、昨年のVTRを準備することで、昨年の経験から係の内容も理解できると考え、自分に与えられた係や自己の役割を十分に意識して意欲的に演じたり、発表したりできると考える。そこで、教師のかかわり方は自分で決めた係や自己の役割を自分なりにみんなの前で表現してみたいという一人一人の気持ちを持ち、個人の表現が気持ちや感情を十分に込めて発揮できるように発表や演技、活動に賞賛を与え、生徒と同じ気持ちになって雰囲気を感じ合うようにする。そうすることで、より自己表現を豊かにできると考える。

③ 実 際（分析，展開の4，5の中で中心となる一部のみを記す。）

過 程	主 な 学 習 活 動	教師のかかわり行動 T ₁ , T ₂	生 徒 の か か わ り 行 動	
			A 群 K.S, K.H	B群 TH,TA,ME,HT
導 入 7 分	1 前時の学習について話し合う。 ・臨海宿泊の期日 場所, メンバー 2 本時の目当てを知る。 班の係を決めよう	T ₁ :「HHとMMは中心になって係を聞いてください。」 T ₁ :「KSは決まったようです。」 T ₂ : TAやTHの間に行き係を聞く。 T ₁ :「HTの係を外にやりたい人はいませ んか。」	KS: 自分の係の写真を選ぶ。 KH: 残った2枚から1枚取る。	TH: 係の写真を取る。 HT: 係の写真を取る。 TA: 係の写真を取る。 ME: 先に取りられ仕方なく残りを取る。 HT,TA,TH:「はい」
	3 班の仕事について話し合う。 ・昨年のVTRを見る ・具体的な係の名前や内容を発表する。 班長, 買物, 炊飯 キャンプファイヤー レクリエーション (昼, 夜)	T ₁ :「みんな自分の係が決まりましたか。」		
展 開 28 分	4 係分担を話し合う。 ・自分の係を決める。 (写真を選ぶ)	T ₁ , T ₂ :「実際に道具を使って発表してください。」	KH: MMに連れられ前に出る。 KH: MMと一緒に写真をはり買物かごを取る。 KH: 椅子に帰ろうとする。	HT: 「買物で, お金の係です。」 HT: 電卓とお金を持つ。
	5 自分の係を発表し演じる。 ・絵カードな前カードや顔写真をはり係の仕事を演じる。	T ₁ :「係の写真と顔写真を黒板にはってください。」		
終 末 5 分	6 まとめをする。	T ₁ :「よくできました。次の人。」	KH: MMと一緒に「いくらですか。」	HT: 電卓を押す。
	7 次時の予告をする。			

(数字は役割意識, 自己表現の状態を表す。)

生徒のかかわり行動	役 割 意 識	自 己 表 現	ア ク シ ョ ン グ ラ ム
C 群 M.M, H.H			
HH: 「どんな係をしたい ですか。」 係の写真を並べる。 MM: 写真を並べるのを手 伝う。 MM: KHに写真を取りな さいと教える。	HH: 4 司会の仕事を 意識する。係の写真と 仕事を結び付けること も分かる。 MM: 4 HHの手伝い をする。(副司会) KS, TH, HT, TA: 3 興味の向いた写真を自 分で取る。 KH: 2 興味の向いた 写真を自分で取る。 MM: 4 HHの手伝い をしなくてはならない とわかっている。 ME: 3 残りの写真を 取る。	HH: 2 全員を見渡しな がらははっきりと言う。 KS, TH: 2 さっと一人 で取る。 HT, TA: 2 一人で取 る。 KH: 2 一人で取る。 MM: 3 取りなさいとい う動作を教える。 ME: 3 しまったという 表情で取る。	
MM: KHを連れて前に出 てくる。 MM: KHと係と顔写真を はり, 道具を取る。 MM: KHを補助して連れ てくる。 MM: KHとHHのやりと りを補助する。	MM: 4 KHを補助す ると分かっている。 KH: 2 自分の係と顔 写真, 道具を取る。 KH: 2 演じることが 分からない。 HH: 3 お金の係を意 識している。 MM: 4 KHを補助し なくてはならないと分 かっている。	MM: 3 親切に連れてく る。 KH: 2 少し考え取る。 KH: 2 さっさと帰ろう とする。 HH: 3 電卓を一人で取 り出す。 MM: 3 二人のやり取り を見守っている。	

④ 評 価

○ 話し合いで自分の係を決め、発表することができたか。

(研究の視点からの評価)

○ 生徒一人一人の役割意識、自己表現を高めることができたか。

- ・ 学習活動の設定は適切であったか。
- ・ 集団構成は適切であったか。
- ・ 教師のかかわり方は適切であったか。

(6) 考 察

・ 役割意識について

本時では、臨海宿泊の係分担について話し合う、自分の係を発表し演じるという場面において分析したA、B、C群それぞれの生徒たちがどのように役割を意識していたのか考えてみたい。まず、C群の生徒たちは昨年の経験を生かし、司会、副司会という他の生徒の発表や係を演じることを補助したり、リードしたりするなどより高次化を目指した役割を与えた。その結果、役割意識の状態は3～4にあり、その場に応じた司会の言葉、リーダーとして他の生徒を進んで補助する姿など教師の期待にこたえつつあると考える。また、教師が話し合いに提案的にかかわったが、このことで司会の仕事をいっそう意識付けでき、話し合いの活動が活発に行われた。B群の生徒は、VTRで係の内容を知ったり、昨年の経験を思い出したりすることで、積極的に自分一人で係や内容を演じることを目標とした。内容を見てみると、教師やC群の生徒の補助を余り受けずに、役割意識の状態は2～3にあり、他の人が先に決めた係はできないというルールも分かりつつあり、十分に自分の役割を意識できていると考えたい。A群の生徒は、写真で係や、自分の名前を明確にし、さらに、教師や他の生徒の補助を受けて、自分のやりたい係や内容を演じることを目標とした。内容を見てみると役割意識の状態はすべて2にあり、目標どおり補助を受けることによって十分に自分の役割を意識できていると考える。

・ 自己表現について

本時では、生徒たちの自主的な話し合い活動を中心にし、係の写真、顔写真カードを用いることで言語活動や身体動作の表現をしやすいし、さらに、係の内容を実際の小道具を使用することで興味を持ち、より豊かな自己表現を導き出すことができると考え展開した。自己表現においては、本グループの生徒たちはすべてその状態が2～3にあり、それぞれの場面において大きな声で発表したり、自信をもって動作化したり、あるいは、言語は不十分でも身振りを入れて一生懸命発表したりするなど、言語活動、身体表現で豊かな自己表現をすることができたのではないかと考える。教師は一人一人の活動や発表内容について賞賛や励ましを与え次の活動へと意欲付けを図った。しかし、教室の狭さ(場の設定)、全体での表現活動(リズム、身体表現)といった内容があれば、更に表現豊かに表現できたのではないかと考える。

(7) 単元を終えて

単元名		計画時数	18時間	実施時数	20時間
実 際 の 学 習 活 動	1 臨海宿泊について話し合う。	研究の視点からの反省及び改善策			
	2 臨海宿泊の場所の自然や特色を調べる。	役割意識	・班活動が中心となる3から7の活動で役割意識の向上が認められた。学習場面での課題を明確にすることが役割意識を高める鍵となったようだ。生徒の欲求や自主性を尊重した教師のかかわり方も役割意識の向上に影響している。		
	3 臨海宿泊の生活について話し合う。				
	4 準備や練習をする。	自己表現	・発表活動が多い1から4において自己表現が多く表れていた。生徒にとって趣味・関心の高い内容が多く、自己表現も豊かに表出されていた。集団も対人関係に特に問題はなく、自己表現も自然に表出されていた。		
単 元 目 標	5 荷造りや荷積みをする。				
	6 臨海宿泊に行く。				
単 元 目 標	7 後始末や反省をする。	単 元 目 標 の 評 価	<p>・自然に関する評価</p> <p>全学年とも貝掘りや魚釣りに熱中したり、夜空の星を眺めて歓声をあげるなど、自然に対する興味や理解が深まった。</p> <p>・集団生活に関する評価</p> <p>1年生は自分の係を果たしながら集団生活の楽しさを味わい、上級生は下級生の面倒を見たり一緒に活動したりする中で協調性やリーダー性が育った。</p>		
	○海辺の自然の生物等の名前や特徴を調べたり実際に接したりすることで、自然に対する理解を深め、2, 3年の上級生と食事などの準備や練習をしたり、自分の身の回りの整理や役割を行ったりするなかで、集団生活の楽しさを味わう。(1年)				
生 徒 の か か わ り	○自然の生物や景色に触れ、自然を大切にすることを育てるとともに集団での役割や活動を知り、下級生と一緒に練習や準備を行うことで協調性や自主的な態度を育てる。(2, 3年)	単 元 の 反 省 と 改 善 策	<p>・学習活動については計画通り実施できた。ただし、テント設営の予備日は必要である。二泊三日は活動のゆとりや生徒の疲労を考えると妥当であった。</p> <p>・集団構成は質や対人関係が考慮されていた。</p> <p>・リーダーの生徒たちが自分の役割を十分意識した活動を行うことができた。</p> <p>・事前学習でも釣り道具や貝類を実際に触れる活動が盛り込まれ生徒の臨海宿泊への興味・関心が高められた。今後も体験を重視させたい。</p>		
	等質グループの特質が生かされ、上級生と下級生のかかわり合いが十分発揮された。特に上級生はこれまでの経験を生かして下級生と接することができ、自信を深めたようである。また、下級生も係の活動やレクリエーションの中で、自分の役割を果たしながら豊かに自己を表現し臨海宿泊を十分楽しんだ。				

5 まとめと今後の課題

高等部では、これまで集団の中で状況に応じたかかわり合いを展開させるために、集団の構成と活動内容に視点を当てて指導法を探り、一応の成果を得ることができた。今回はその研究の成果を「教育課程の編成」という大きな枠組みの中でとらえ直し、生活単元学習の指導計画作成の中に生かすとともに、実際の授業を通して検証していくという2つの点から研究を進めてきた。生活単元学習の指導計画を作成するに当たっては、生徒の欲求や興味・関心と生活上の課題から指導内容を洗い出し、それに季節や学校行事を考慮して単元を配列していった。さらに、今回は「個に応じた指導の充実」、「体験活動の充実」それに研究の視点である「役割意識を高め、自己表現を豊かにする」内容を盛り込むことでかかわり合いの豊かな生徒を育てていこうと考えた。

私たちは、役割意識を高め自己表現を豊かにするために、「集団の構成」、「学習活動の設定」、「教師のかかわり方」を授業を設計する際の大切な要素としてとらえるとともに、その手だてを探っていった。実践例ではリーダー性を生かせるような役割の与え方、役割意識の向上が図られるような学習活動の設定、お互いの役割を意識できるような教師のかかわり方等が工夫されている。さらに、自己表現を豊かにするために生徒が興味・関心を持ち表現の意欲がわくような学習活動の設定、反応的、提案的な教師のかかわり方についても工夫がなされている。このようにして、私たちは生徒の役割意識や自己表現の向上を図ることで、前文で述べられている自我関与及び自己の意識化を促進し、集団の中での豊かなかかわり合いを高めていった。

以下に今回の研究を通しての成果を述べる。

- 指導計画に役割意識や自己表現について内容を明確に示したことで、教師もこれらを意識した活動を設定することができた。
- 役割意識や自己表現の向上を図るための教師のかかわり方についての視点を新たに設けて進めていく中で、生徒の役割意識や自己表現の状態を感じ取り、またそれに適切にかかわっていくことの重要性を認識することができた。
- 生活経験の差を考慮した指導計画を作成したことにより、個に応じた指導を授業レベルだけでなく、単元全体を見通したところから実施することができ、基礎・基本の充実を図ることができた。

また、次のような課題も合わせて浮き彫りにされてきた。次年度からの研究でこれらの課題を解決していくために更に研究・実践を深めていかなければならない。

- 「役割意識」と「自己表現」を研究の視点として取り組んできたが、これらのとらえ方や評価の在り方がやや具体性に欠けるところがあったため、学習の要素としての「学習活動」や「教師のかかわり方」を設定する際、難しい面があった。
- 指導法を考える際、私たちは学習の要素として「集団構成」、「学習の活動の設定」、「教師のかかわり方」を考えてきたが、もっと焦点化した指導法を考えていく必要がある。

参考文献

- ・ 鹿児島大学教育学部附属養護学校（1984）：研究紀要第4集
－生き生きと働く子供を育てる教育課程の編成－ 学部研究編
- ・ 鹿児島大学教育学部附属養護学校（1986）：研究紀要第5集
－生き生きと働く子供を育てる教育課程の編成－ 指導計画編
- ・ 鹿児島大学教育学部附属養護学校（1990）：研究紀要第7集
－かかわり合いの豊かな子供をめざして－ 学部研究編
- ・ 文部省（1989）：盲学校、聾学校及び養護学校 高等部学習指導要領 大蔵省印刷局
- ・ 文部省（1991）：特殊教育諸学校，小学部・中学部学習指導要領解説 東洋館出版社
－養護学校（精神薄弱教育）－
- ・ 全日本特殊教育研究連盟編集委員会（1990）：発達の遅れと教育 1月号 日本文化科学社
－特集 学習指導要領はどう変わったか－
- ・ 全日本特殊教育研究連盟編集委員会（1991）：発達の遅れと教育 3月号 日本文化科学社
－特集 これからの高等部教育－
- ・ 文部省初等中等局（1989）：季刊 特殊教育 東洋館出版社
－特集 教育課程の基準の改善－
- ・ 文部省（1986）：生活単元学習指導の手引 慶應通信株式会社
- ・ 大橋 正夫，古畑 和孝 外（編）（1984）：現代社会心理学－個人と集団・社会－ 朝倉書店
- ・ 佐々木 薫，永田 良昭（編）（1987）：集団行動の心理学 有斐閣
- ・ 田中熊次郎（1975）：新訂児童集団心理学 明治図書

